

# 令和元年度 政策・施策外部評価結果の反映状況について

評価対象	政策・施策外部評価結果（抜粋） 【R2.3】	施策や事業に対して得られた気づきと今後の対応方針 【R2.9】	後期実施計画への反映 【R3.3】																							
<p>中枢都市 ① 首都圏等からの移住・定住の促進</p>	<table border="1" data-bbox="344 308 1481 631"> <thead> <tr> <th colspan="2">ワークショップで出された直接アウトカム</th> <th>現在の主な搭載事業</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>01</td> <td>静岡市の住みやすさ、暮らしやすさが多くの人に伝わっている</td> <td>1 (1)～(4), 2 (1)～(3) 3 (2), 3 (4), 3 (8)</td> </tr> <tr> <td>02</td> <td>若い世代が楽しめる／遊べる場所と機会がたくさんある</td> <td>3 (1)</td> </tr> <tr> <td>03</td> <td>高齢になっても生きがいをもって中山間地で暮らしていける</td> <td>他の重点プロジェクトで実施</td> </tr> <tr> <td>04</td> <td>中山間地域で暮らしと仕事が両立できる</td> <td>2 (4)～(6)</td> </tr> <tr> <td>05</td> <td>若者がやりたいと思える仕事／多様な働き方であふれている</td> <td>3 (3), 3 (5)～(7)</td> </tr> <tr> <td>06</td> <td>住民でなくとも気軽に（副業・兼業で）静岡で働ける</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>・現在の事業は、01「静岡市の住みやすさ、暮らしやすさが多くの人に伝わっている」にほとんどの事業が関連している。一方で、06「住民でなくとも気軽に（副業・兼業で）静岡で働ける」については関連する事業が搭載されていないことから、関連する事業を組み込み、一体的に実施すべきである。</p>	ワークショップで出された直接アウトカム		現在の主な搭載事業	01	静岡市の住みやすさ、暮らしやすさが多くの人に伝わっている	1 (1)～(4), 2 (1)～(3) 3 (2), 3 (4), 3 (8)	02	若い世代が楽しめる／遊べる場所と機会がたくさんある	3 (1)	03	高齢になっても生きがいをもって中山間地で暮らしていける	他の重点プロジェクトで実施	04	中山間地域で暮らしと仕事が両立できる	2 (4)～(6)	05	若者がやりたいと思える仕事／多様な働き方であふれている	3 (3), 3 (5)～(7)	06	住民でなくとも気軽に（副業・兼業で）静岡で働ける		<p>・評価結果で事業が貼りついていなかった「直接アウトカム06」には、<u>今年度から対象を企業から個人へと拡大した「1 (3) テレワーカー移住促進事業」が効いていると考えられるので、今後、直接アウトカムを意識して事業を整理していく。</u></p> <p>・コロナ禍で首都圏在住者の地方移住ニーズの高まりを受けて、移住支援センターを中心とした移住者増につながる施策のさらなる強化や市内の充実したシェアオフィスや都市型地域おこし協力隊を活用した<u>関係人口の増加に取り組む。</u></p>	<p>○<b>拡充した事業</b></p> <p>まちごとテレワーク推進事業</p>		
ワークショップで出された直接アウトカム		現在の主な搭載事業																								
01	静岡市の住みやすさ、暮らしやすさが多くの人に伝わっている	1 (1)～(4), 2 (1)～(3) 3 (2), 3 (4), 3 (8)																								
02	若い世代が楽しめる／遊べる場所と機会がたくさんある	3 (1)																								
03	高齢になっても生きがいをもって中山間地で暮らしていける	他の重点プロジェクトで実施																								
04	中山間地域で暮らしと仕事が両立できる	2 (4)～(6)																								
05	若者がやりたいと思える仕事／多様な働き方であふれている	3 (3), 3 (5)～(7)																								
06	住民でなくとも気軽に（副業・兼業で）静岡で働ける																									
<p>防災都市 ① 災害対応力の強化と危機管理体制の確立</p>	<table border="1" data-bbox="344 792 1481 1141"> <thead> <tr> <th colspan="2">ワークショップで出された直接アウトカム</th> <th>現在の主な搭載事業</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>01</td> <td>防災・減災効果が高い都市基盤や施設の整備が進む</td> <td>1 (1), (2) 2 (1)～(4) 6 (1)～(4), 7 (2)</td> </tr> <tr> <td>02</td> <td>地域の防災体制が整備され、防災や災害対応に関わる市民が多くなる</td> <td>3 (1), (2), 7 (1)</td> </tr> <tr> <td>03</td> <td>防災の知識を持ち、適切な行動をとる市民が多くなる</td> <td>4 (1)</td> </tr> <tr> <td>04</td> <td>災害時に正確な情報が必要とする人たちに迅速に届く</td> <td>4 (2), (3)</td> </tr> <tr> <td>05</td> <td>災害ボランティア活用の仕組みや体制が整う</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>・現在の事業は、01「防災・減災効果が高い都市基盤や施設の整備が進む」に多くの事業が関連している一方で、05「災害ボランティア活用の仕組みや体制が整う」については関連する事業が搭載されていないことから、関連する事業を組み込み、一体的に実施すべきである。また、最終アウトカムの実現に向け、特に03「防災の知識を持ち、適切な行動をとる市民が多くなる」が重要であること、より重点的に進めていくことが求められる。</p>	ワークショップで出された直接アウトカム		現在の主な搭載事業	01	防災・減災効果が高い都市基盤や施設の整備が進む	1 (1), (2) 2 (1)～(4) 6 (1)～(4), 7 (2)	02	地域の防災体制が整備され、防災や災害対応に関わる市民が多くなる	3 (1), (2), 7 (1)	03	防災の知識を持ち、適切な行動をとる市民が多くなる	4 (1)	04	災害時に正確な情報が必要とする人たちに迅速に届く	4 (2), (3)	05	災害ボランティア活用の仕組みや体制が整う		<p>・現在の重点プロジェクトはハード事業を中心として構成されている。今回ロジックモデルを作成したことで、ハード事業だけでなく、ソフト事業についても重点プロジェクトに盛り込むことで体系的な整理ができると評価された。分野別計画には位置づけられているが、重点プロジェクトとして位置づけられていないソフト事業もあることから、<u>重点プロジェクトへの盛り込みを検討していく。</u></p>	<p>○<b>追加した事業</b></p> <p>・同報無線デジタル化整備事業の検討</p> <p>・危機管理体制の充実・強化</p>					
ワークショップで出された直接アウトカム		現在の主な搭載事業																								
01	防災・減災効果が高い都市基盤や施設の整備が進む	1 (1), (2) 2 (1)～(4) 6 (1)～(4), 7 (2)																								
02	地域の防災体制が整備され、防災や災害対応に関わる市民が多くなる	3 (1), (2), 7 (1)																								
03	防災の知識を持ち、適切な行動をとる市民が多くなる	4 (1)																								
04	災害時に正確な情報が必要とする人たちに迅速に届く	4 (2), (3)																								
05	災害ボランティア活用の仕組みや体制が整う																									
<p>共生都市 ① 多様な人々による共生</p>	<table border="1" data-bbox="311 1366 1513 1840"> <thead> <tr> <th colspan="2">ワークショップで出された直接アウトカム</th> <th>現在の主な搭載事業</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">(1)</td> <td>01</td> <td>若い人が職業の多様性を知り、各自のキャリアを主体的に考えることができる</td> <td></td> </tr> <tr> <td>02</td> <td>市民が性別、年齢、障がいの有無、国籍の違いに関係なく円滑なコミュニケーションができるようになる</td> <td>1 (4), 2 (2)</td> </tr> <tr> <td>03</td> <td>転職のマッチングの体制が整っている</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">(2)</td> <td>01</td> <td>市民が多様な働き方・生活の仕方を選択できる</td> <td>3 (1), 4 (1), (2) 5 (1), (2)</td> </tr> <tr> <td>02</td> <td>介護・子育てが女性（娘）に偏らない／男性も介護・子育てに参加できるようになる</td> <td>2 (1)</td> </tr> <tr> <td>03</td> <td>介護・子育ては女性の役割という意識が変わる／お互いの違いを理解し受け入れる職場風土になる</td> <td>2 (1)</td> </tr> </tbody> </table> <p>・現在の事業は、(2)01「市民の多様な働き方・生活の仕方を選択できる」に関連する事業が多い一方、(1)01や03といった「働く」視点での事業が搭載されていないことから、当該重点プロジェクトでカバーする範囲を踏まえ、必要に応じ関連する事業を組み込むことが求められる。</p>	ワークショップで出された直接アウトカム		現在の主な搭載事業	(1)	01	若い人が職業の多様性を知り、各自のキャリアを主体的に考えることができる		02	市民が性別、年齢、障がいの有無、国籍の違いに関係なく円滑なコミュニケーションができるようになる	1 (4), 2 (2)	03	転職のマッチングの体制が整っている		(2)	01	市民が多様な働き方・生活の仕方を選択できる	3 (1), 4 (1), (2) 5 (1), (2)	02	介護・子育てが女性（娘）に偏らない／男性も介護・子育てに参加できるようになる	2 (1)	03	介護・子育ては女性の役割という意識が変わる／お互いの違いを理解し受け入れる職場風土になる	2 (1)	<p>本市が共生都市を実現する上で、「働く」という場面は共生の一部であると考えられることから、<u>最重要視する場面なのか、早期に注力すべき場面なのかなど検証した上で、総合計画や事業要求に反映を検討していく。</u></p>	<p>○<b>追加した事業</b></p> <p>・若者の地元就職・UIターン就職促進事業</p> <p>・障がい者の雇用確保支援事業</p> <p>・高齢者就労促進事業</p>
ワークショップで出された直接アウトカム		現在の主な搭載事業																								
(1)	01	若い人が職業の多様性を知り、各自のキャリアを主体的に考えることができる																								
	02	市民が性別、年齢、障がいの有無、国籍の違いに関係なく円滑なコミュニケーションができるようになる	1 (4), 2 (2)																							
	03	転職のマッチングの体制が整っている																								
(2)	01	市民が多様な働き方・生活の仕方を選択できる	3 (1), 4 (1), (2) 5 (1), (2)																							
	02	介護・子育てが女性（娘）に偏らない／男性も介護・子育てに参加できるようになる	2 (1)																							
	03	介護・子育ては女性の役割という意識が変わる／お互いの違いを理解し受け入れる職場風土になる	2 (1)																							